



## 目の色がいろいろあるのはなぜ

### 目の色を決めているのはメラニン

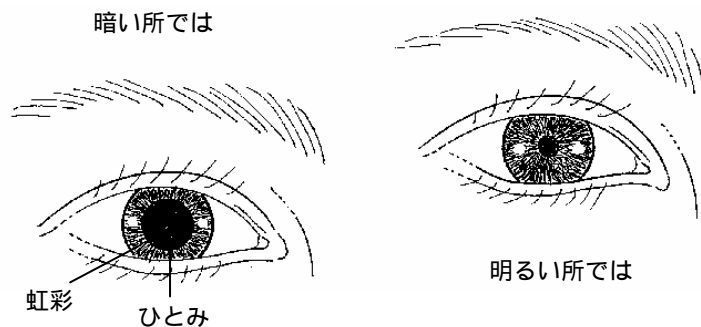
黒目の真ん中には、真っ黒く見える丸いひとみがあり、このまわりに、細かいしわのよった膜がありますが、これが虹彩という膜です。この虹彩には、メラニンという色素があり、虹彩にこのメラニンが多いと黒くなり、少ないと茶色や青色に見えるのです。

また、メラニンは虹彩のまわりの膜や、眼球のおくにある網膜というところにもふくまれています。西洋人には、虹彩やそのまわりの膜にあるメラニン色素が少ないので、網膜の色素がすけて見えるために、虹彩の色が、茶色や青色などに見えるのです。

### 虹彩のはたらき

虹彩やそのまわりにある膜の色素は、ひとみのあな以外の部分から入る、不必要な光をさえぎるはたらきをしています。不必要な光や、有害な光が目にとたくさん入ると、見たものの像が、はっきりと網膜に結ばず、よく見えないからです。

日本人の目は黒く、虹彩にたくさん色素があるため、西洋人よりも視力が強く、強い光にもたえられます。しかし、目が青く、虹彩にメラニン色素の少ない西洋人は、視力も弱く、強い光を非常にまぶしく感じるため、サングラスが必要なのです。  
(監修・保志 宏)



虹彩は、明るい所ではひとみを小さくし、暗い所ではひとみを大きくして、目に入る光の量を調節しています。

